

平成29年度第6回沼田市市民構想会議（会議概要）

- 1 日 時 平成30年1月23日（火）午後2時から午後4時30分
2 場 所 沼田市役所 第二会議室
3 出席委員 委員12名（欠席13名）
アドバイザー 篠田 暢之氏
沼田市 副市長、企画課長、企画課主査、企画課主事

4 会議内容

（1）開 会（事務局）

（2）会長あいさつ

<会 長>

本日は足下の悪い中、ご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

昨年は5回の開催で、熱心な議論を進めて頂き感謝申し上げます。特に市長提案事項ということでご協議いただいた訳ですが、新聞記事にあるとおり12月20日に私と副委員長さんで本会議の成果の取りまとめを市長に提出し回答させて頂きました。

市長さんも出来る事から議論の成果にお応えできるように取り組んでいくというお話をいただきましたので、その旨をご報告申し上げます。

今年度については本席の会議が最後の会議という予定ではありますが引き続き来年度もよろしくお願ひします。

今日は皆様方からご提出をいただいたレポートを中心に議論を進めて参りますが、来年度のテーマについてもご協議をお願いしたいと思っております。結びに平成30年が皆様方にとって、ご健勝と共に充実した1年になりますよう祈念し、加えてこの会議がますます充実しますよう期待し、ご挨拶に代えさせていただきます。

どうぞよろしくお願ひいたします。

（3）前回の会議結果について

<会 長>

それでは、前回の会議結果について事務局から説明をお願いします。

<事 務 局>

**** 第5回沼田市市民構想会議概要により説明 ****

<会 長>

事務局からの説明がありましたが、ここで質問等があればお願ひしたいと思ひます。

<委 員>

フェンシングの話が出ましたが、今年の7月にはドイツから選手団が沼田に来ると聞いていますが、そうした受け入れに支障のないように1階の設計などはしてあるんですか。

<事務局>

今年、中国で国際大会が行われるということで、ドイツのナショナルチームが事前合宿をするという予定になっています。その中で、ナショナルチームとのフェンシング教室を計画していると聞いております。

<会 長>

他に、あればお願いしたいと思います。

<各 委 員>

(無し)

<会 長>

無いようでございますので、次に移らせていただきます。

(4) 議題

1) 『未来の沼田市に必要なこと』 (意見発表)

<会 長>

(1) 「『未来の沼田市に必要なこと』」について事務局から説明をお願いします。

<事 務 局>

それでは、ご説明させていただきます。事前配布させていただいた「未来の沼田に必要なこと」の冊子、それから本日配布させていただきました追加の意見書の綴りをご覧くださいと思います。

前回の会議で次年度の構想会議では本会議、設置要綱第2条第2項に掲げる将来のまちづくりに対し、必要と認められる事項について議論し、市長に提案する各種の課題や問題のご議論をお願いします、その検討テーマの方向性や絞り込みについて、ご協議いただきたいと提案をさせていただきました。

また、篠田先生からご提案があり、この機会に各委員さんからご意見を出していただき、それをたたき台にして議論してはどうかとの発議がありました。

それをまとめたものがこの冊子でございます。限られた時間の中でどこまで議論できるか分かりませんが、次年度の検討テーマについて、こうした作業を基礎に議論を進め、ある程度の方向性を今日の会議で出していただければと考えております。

また議題の(1)では意見を出された各委員さんから発表をお願いしたいというふうに考えております。なお、会議時間が限られていることから、事務局ではおひとり5分程度を目途にお願いできればと考えておりますのでよろしく願いいたします。

なお、今回の議題のコーディネートにつきましては、篠田先生をお願いしたいと考えておりますので、この点もよろしく願いいたします。事務局からは以上でございます。

<会 長>

事務局から説明がありました。説明のとおりでよろしいでしょうか。

<各 委 員>

(異議無し)

<会 長>

それでは、篠田先生にコーディネートということでお願いいたします。

<アドバイザー>

ご指名に与りましたので、一言ご挨拶をさせていただきます。尚、座ったままで失礼させていただきますが、お許してください。

至りませんが、みなさま方のご協力を得て時間の許す限り努めさせていただきますので、宜しくお願いいたします。

皆さんがお考えの沼田市への思いをまとめて頂きました提言書を私も拝読いたしました。これまで本会のアドバイザーとして参画させて頂いておりますので、私もお手元にお配りした篠田メモという形で、私見を提出させて頂きました。しかし、これがこの会の方向性の議論を基礎づけ、縛り上げる意図でない事は、予めお断りしておきたいと思います。

来年度に向けて市民構想会議として、より具体的に踏み込んで議論が進むように今回は、できれば今後の会議の方向性を可能な限り方向づけ、次年度の議論が進むようにとの事務局のお考えもあり、そうした観点からも今後の前進的な議論の礎を明らかにしておきたいと考えておりますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。

2期目を終え3期目を迎えようとする、この市民構想会議を継続性をもって進める為にはこれまでの議論を踏まえて、ある程度、具体的な方向に議論を進める前段が必要だろうということで、留意点をまとめさせていただきました。

簡単に読ませていただきますので、お聞き頂いた上で問題点があればご指摘いただきながら、その他のご意見もうかがえればと思います。

市民構想会議は市民目線から未来の沼田市を構想し、新たな沼田市の未来の社会づくりへの各種提言を議論し、今後の市政運営の方向性決定に活用いただくための取組です。従来の地域創生は「国の主導の地方創生」であり、古くは大平正芳総理の地方創生が最初であったと思います。次には竹下登総理の「ふるさと創生」です。安倍政権による地方創生も、勿論あります。これらはいずれも国主導の地方創生です。

国の指針に従い沿う創生案であることを暗黙の前提条件として、それが具備されている場合にのみ評価されました。国の意図に限りなく沿う地方自治体側の条件具備が国から各種補助金や助成金を受ける地方自治体の務めでもあり、その結果、交付される図式ができてきていました。

この事は皆さんもご存知だと思います。また助成金をどのように取ってきてもらえるかというのは、国や地方議会の議員先生の仕事のひとつでもあり、それを有効活用するのが行政の担当部局の能力として考えられて来ました。

しかし今ではこのような流れは大きく変わろうとしています。いわば『地域主導の

『地域創生』へとパラダイム・チェンジ（枠組みの変更）が進んでいます。この点のご同席の皆さんはご存知の事だと思います。これまでのこの構想会議では貴重なご意見を数多くいただいている中で、基本的には『地域主導の地域創生』ということをご提案されているということが提出くださいましたレポートからもはっきり判りました。

“地域の活力は地域で”という国の姿勢転換は、従来の地域創生の在り方と根本的に異なります。ただし、ここで大きな問題が3つあると私は理解しています。1つ目は人口問題。2つ目には財政問題。3つ目は未来づくりへの合意形成と未来の地域の姿への確認作業の市民的理解です。

ひとつ目の問題は人口問題です。少子化に加えて、高齢化が既に目の前の現実となっています。この点では委員の皆さんからは、それぞれニュアンスは違っても同じ視点でご提案をしてくださったかと思います。人口問題へのアプローチは緊急を要していますが、解決には長期化を覚悟しなくてはなりません。既に高齢になられた方は健康長寿でありたいことが目標になりますが、その為になにができるかという様々な解決策の議論が必要となります。

少子化に対してもその対策が問題になりますが、この解決を急いでも国家が社会的に若返るのは30年後という現実が少子化対策にはあることを前提に考えねばなりません。生まれたばかりの子どもが成長し社会の力になるには20年から30年先のこととなるからです。息の長い長期的な対策と、その為の継続的な取り組みがここでは求められます。

ふたつ目の問題は国を含め地方自治体も「財政」について厳しい現実と向かい合っていないかねばならない財源問題への課題です。従来の補助金や交付金を地方自治体に交付することが国も耐えられないという見通しがあるからです。そのために地域は地域で知恵を絞って欲しいという訳です。

しかし国と同様に地方自治体の沼田市においても、その現実と同様です。課題山積の中、各自治体が抱える財政問題を基礎とした課題は、簡単に解決できる問題ではありません。人口減は財政規模の縮小を現実問題として突きつけます。これは沼田市だけの問題ではなく、日本全体の問題でもあるのです。このような現実的な問題の解決の為には、従来通りのプラス思考からマイナス思考へと、私たちの考え方を変えなくてはなりません。無いモノを足す、プラスの議論はそれほど難しくない事ですが、既にあるものをマイナスにする、引き算するという場合は総合的な見地に立った議論が必要です。この為にも市民的理解が求められている大切な手続きが避けられません。

市民構想会議は皆さんの沼田市に対して、こうした問題とどう向かい合い解決していくか、方向性議論の基本的な決定が市民的な議論の総意として求められているので

す。構想会議委員の皆さまには未来の沼田市への「想い」を1枚に簡単にまとめていただくように前回、提言をさせて頂きましたのは、そうした意図からアドバイザーとしてお願いしたもので、大変ご苦勞をおかけしたと思います。

3つ目には、未来への合意形成の基礎付けとして、ご提案頂きました委員の皆様方からのレポート内容を、各分野別にいくつ問題提起して頂いたか分かるように事務局で内容的に整理をしていただきました。事務局でもその為にご苦勞があったものと推察しております。

ご提案が複数にまたがるケースが多々あり、その処理をどうするか議論して頂いたと聞き及んでいます。そうではありましたが議論を早める意味からご提案の各概要について分類のために便宜的に要旨と思われる事項を項目的にまとめていただきましたが、部分的に漏れがある場合もあるかと思えます。そういうことで、ひとまずタイトル別に点数化を試みました。

皆様のご意見としていくつ提案が上がってきたかを事実として尊重し、その点数化の多少により、問題関心の多さを理解できるのではないかと考えたからです。点数化は関心度を理解するための手掛かりであり、議論の内容の優劣や優先順位を決めるものではありません。加えて、締切日の後に後日提案していただいたご提案は時間の都合により、ここには含まれておりませんので、お許しいただき、ご了解いただければと思います。

点数化によって見えてきたご提案の内容は商工業が5点、観光が8点、農林業が3点。中には観光では「進化する森林冒険」というようなユニークなご提案も、1点を加えてあります。それから都市基盤の整備等が4点ですが、ここには安心・安全を1点含めて4点になります。教育が2点となっております。

個別に見ていくと、商工業では企業誘致による雇用機会の確保、地域経済の活性化、働き方改革の推進、労働教育の充実、公共事業への総合評価方式の導入、「こんにやく」の六次産業化推進等が提言されています。

観光では、観光資源の見直しと魅力の情報発信。観光については相当数の委員の皆さんが大きな関心を寄せられており、地域活性化の起爆剤にしたいという共通の想いが読み取れました。こうした提案のアプローチは各自、違いますが、ふるさと沼田への厚い想いをそれぞれの形で表明されたと思います。

地域資源の活用、郷土愛の醸成、周辺市町村との連携による経済活性化、沼田城の復元。こうした課題については1期目から個別の提案としてありました。総論としての提案で、各論的にはご提案の内容に無理があるものもあり疑問が残りました。

大型観光施設の整備、それから森林冒険施設の整備など、必ずしも巨額な予算措置を前提にしていない、今すぐにでも取り組めそうなお提案もありました。沼田市が長

らく「森林文化都市」という標語で街づくりに取り組んでこられた実績に新しい息吹を吹き込みたいという思いが、ここにはあることが分かりました。

農業では、地域特性を活かした農業振興、多様な主体の相互連携による地域社会づくり等が提言されています。ここには農産物のブランド化の話も含まれていました。

都市基盤整備では、空き屋対策、防災対策、道路整備の推進による交通アクセスの向上、住居地域の絞り込み（コンパクトシティ）等が提言されています。

教育では、大学や専門学校の誘致という、「2018年問題」にも関わる内容が含まれており、慎重な議論が望まれると思いました。ご存知のように今年の大学受験では、私立大学の4割に募集定員に満たない大学があり、大学経営の危機が迫っています。私立大学の存続問題から、当該所在地の自治体が公立化に協力し、若年齢層の定着に活路を見出す自治体もありますが、大学の限界経営を自治体に付け回す厳しい現実につながるとの指摘もあり、よほどの特殊性を打ち出さないと難しいと思いました。

それからインターナショナル・スクールの誘致という、大変ユニークな提案もありました。学校を作るだけでは無く、そこから始まる様々な人的な関係性をこの地域の資産にしてはどうかという、壮大なご提案がありました。この提案では、新たに新しく施設を作るのではなく、むしろ現有施設の有効活用等を含めた多様な運営形態による、学びの場の創造という点にご提案の趣旨が置かれていたと思えます。

以上、点数化による分類には内容的に重複する部分が本当にたくさんありました。ご提案いただいたような考えを詳らかに聞きし、議論を重ねる必要が当然、求められるのだろうと考えました。

今回、今後の議論の方向性を決める議論として参考になればとの考えから、このようなメモと共に参考資料として1月21日の地域紙の新聞を資料としてお配りして頂きました。『転換日本』（副題、地域創生の展望）という単行本は月尾嘉男先生が東京大学出版会から公にされた出版物で、地域活性化を考える事例研究書ですが参考になる本ではないかと思いき前出させて頂きました。

他のひとつは産業振興という切り抜きですが、この紙面の読み解き方はいろいろあるとは思いますが、会議前に副市長様とお話をさせて頂く中で、この新聞紙面の著者が「みなかみ町」のアドバイザーだとして示唆頂きました。地域活性化・地方創生で「みなかみ町」で各種アドバイスをしておられるとお聞きしました。

産業を広く地域活性化や地方創生の基盤と捉えれば、農業も観光も、そして実際の生産活動の様々な分野も含めて地域の活力を創造する産業という事になります。そうした地域振興政策がこれからのこの地域の未来を決めていく活力の源泉になることは明らかで、まさしくこの市民構想会議が皆さんの旺盛なご議論によって進められてい

ることは、時宜にかなった望ましい方向ではないかと考えております。

折角、皆さんに貴重な時間を割いて文書化してご提案いただいたので、時間の制約がありますが、お一人、約5分程度でご発言をお願いできればと思います。順番にご発言をいただければと思います。

それでは提出意見一覧の順番に沿って進めさせていただいてよろしいでしょうか。

<各委員>

(異議無し)

<アドバイザー>

尚、ご欠席の方については書面を提出されている場合には事務局でその概要を代理発表していただく形で進めさせていただきます。重要なポイントを中心に5分ほどを目途にアピールしていただけたらと思います。それではお願いします。

<委員>

私は沼田市に大学や専門学校に来てもらって生徒さん達に住んで貰うという沼田市の未来を考えました。先ほど先生がご指摘されたように、「2018年問題」に顕れているように、少子化による大学入学者が少なくなり、大学や専門学校の経営が極めて大変になるとのことで、その為には特化した教育内容をもつ専門性の強い、そういう学習ができるような高等教育機関を沼田市に開設出来ないかと考えました。

学生となる対象は若い方に限らず社会経験豊かな方でも学べるような形の教育機関の誘致が出来れば、施設の有効活用と共に、近郊に住んで通学して貰うことで人口増にも貢献し、やがて住む人が増える事にもつながるのではないかと思います。

人が増えれば、その分、生活面に関しても緩やかであっても潤って行くに違いないからです。教育内容に関連する分野の企業や会社・工場なども含めて誘致していけば、地域住民の雇用対策にもつながり人口流出にも歯止めがかかるように思います。

最後に書きましたが、利根沼田の自然が豊富なところを活かして、川や山や冬山、夏の登山や、冬のスキーヤーなどを呼び込む、自然の中で自然を満喫する環境を作り大人も子どもも遊べるような施設というか環境を整え、家族は勿論、子どもたちにも遊べて楽しい場所になるのではないかと思います。新しい若い家族の方達や、子どもなど、そういう方に積極的に住んでもらいたいなと思っています。

学生や子どもなど、若い人たちに魅力ある沼田市を目指せば、徐々にではあっても人口が増えていくのではないかと思います。提言書を書きました。

<アドバイザー>

ご発言では、特化したマニアックな世代を超えた教育機関を誘致し、そこからその発展形としてそれに関連する企業や会社を誘致し、未来の沼田市につなげるご提案でした。そうした取り組みから人口問題への解決の手掛かりをつかみ取り地域活性化を

目指すというご提案だったと思います。ありがとうございます。

では、次の方お願いいたします。

<委員>

私は農業から沼田市に必要な活性化を提案したいと考えました。現在、沼田市でも耕作放棄地等が拡大し、そのために鳥獣害対策等が後手に回っています。農協もそれなりに対策は取っていますが鳥獣害にはなかなか有効な手立てがないのが現状です。そうした現状からこの先の10年後を見据えたときに問題の深刻さが一層、際立ってくると思えます。その原因のひとつが農業従事者の減少が著しく進むと予想されているからです。そうなるとこれまでも見られている耕作放棄地が更に一気に増えるに違いありません。

そうした時に、中山間地域である沼田も例外なく放棄地に近い所から農地が放棄されていくだろうと思います。農業委員会等で様々な対策を取っておられると思いますが、それだけでは不十分だという状況が、近い将来、迫ってくると見えています。そういった問題を抱えている現状で、どうすれば優良な農地をうまく維持管理し農産物の生産を続けていけるか、早急にそれらの対策が急がれていると思います。

退職者、それから女性の方など、農業の担い手となって頂ける人たちにある程度の収益につながる農業対策がヒトの問題の解決につながると考えます。勿論、農協などもそうした課題解決を目指して進めておられると思いますが、人口減少に伴う組合員減少も含めて、その対策には急がないと時間が無いように思います。

農業問題を後ろ向きにとらえるのではなく、積極的にもう少し地域の活性化という視点から真剣に考える時に来ていると思います。その為には新たな農業従事者を招き入れて、定住していけるような方策が必要だろうと思っています。市長が打ち出された提案のひとつに学校給食で地元食材を使っていくという発言をいただきました。

給食センターの改修等も含めて地元の食材を使うということになれば、子ども達に自分たちが地元で育てられた農産物を食べ、その味を貴重な記憶としても故郷の食材と味覚という得難い経験を給食という形で理解できます。

おいしいお米の味をしっかりと覚え故郷の豊かさを理解できることが必要だと思います。長い時間が掛かっても食育を学校教育の現場を通して周知していく必要があると考えています。

それから農地との関係で言えば集落営農とか、まとまった組織づくりも必要かと思っています。その理由は今のところ地域の中で率先して農業をやってくれる方が各地域に何人かおられます。しかし、その人達だけで農地を守り、手を入れていくことは条件の良いところでは比較的負担が少なくでき可能性があると思います。ところが問題は農地に引いてくる水の管理や水路の管理なのです。

これまで地域の人たちで、守ってきたそうした水の管理が、農地が放棄されることによって、その管理が出来なくなるからです。農地に水を引いてくることが出来ないというのは、農業には決定的に問題です。そうなれば、もうそこに田んぼを作ることができなくなります。そういうことも含めると、やはり地域の人たちの協力が不可欠なのです。その為の対策を取っていかないと農業においても、これが出来る地域と出来ない地域とでは、自然と農業による収入格差が生じます。既に、実際にできない現状が続いている地域があることは、危機が迫ってきていると理解すべきかと思えます。

農地・水対策については実際、現場に足を運んでもらうと判りますが、地域の人たちが集まって、U字溝の改修工事をすると、国の補助金の中で材料支給など補助があります。しかし、そういった事業が年々できなくなっています。実際に月夜野で、私が住んでいる師地区では、農地・水の事業を放棄してしまいました。もうやってくれる人が居ない。

年寄りばかりで若い人が何人か居ますが、その人達に重圧が掛かりすぎ「我々だけではできません」と返上されてしまいました。そういった現実が目の前の出来事として目に見えてきており、この先が非常に危惧されます。

利根実業高校では、そばで日本一になっており、この地域を動かすマン・パワーやそれを支える宝の材料が身近に眠っていると思います。そうした部分を掘り起こし、活性化に繋げて行けたらと思いますしそれが農業振興にも繋がればと思っています。

これからは非農家の方達にも、そうした部分に参加してもらうことで、地域の景観を守りながら、農業に必要な水の管理等も進める事が可能になると考えています。

いずれにしても、農業問題は私たちの生命線であり、困難な状況があっても時間をかけて、しっかりやっていく最優先問題で必要があると思います。

<アドバイザー>

ありがとうございました。既に現実となり始めている農業従事者の減少や中山間地の耕作放棄の問題など、これから10年先の農業従事者の減少対策をどうするのかというご提言だったと思います。

特に中山間地の放棄地問題、集落営農による必要条件を具備した力を活用して地域の活性化に結び付けていく積極的な取り組みが必要ではないかとの沼田市の近未来への提案でした。水の管理や、地元食材の活用による人づくり・食育への期待のご提言だったと思います。具体的な地域活性化のお話、ありがとうございました。

次に、では次の方おねがいします。

<委員>

私の住んでいる町内はおよそ150軒です。私は区会で会計を担当している関係から台風襲来の夜に災害による被害防止の観点から、避難して欲しいと伝えたところ、

お年寄りをどうやって集会所に連れて行くのかと言った、厳しい発言が飛び出す始末でした。

市内ですと指定された避難所も近くて比較的便利で良いのですが、私たちの方だと、地域が広く、緊急避難は、なかなか簡単にいきません。しかも問題なのは避難に際してお年寄りをはじめ住人の方々の所在や確認が個人情報保護の観点から極めて難しい問題となり、この点で頭を抱えてしまう事態が持ち上がります。該当者の年齢やその他、避難の際に必要なと思われる各種の情報が援助する側に閉ざされているため、緊急避難の際にお役に立とうとしても、何ともなりません。市役所に尋ねても絶対教えてくれません。

独居の方を、避難を目的に集会所に集って頂いても、本人の関係者や子ども達とかに、ご本人の健康状態について様態が悪くなった場合どうするのか等、ほとんど何も決まっています。

誰がどのような責任で親族や関係者に連絡するのか等、危機・緊急時のシステム構築を、何もない平常時からしっかりと考え取り組んでいかないと、非常時にはお手上げになります。これでは安全・安心な沼田市にはなりません。

沼田市も人口減を前提にどういうシステムを作っていくのか、現状では問題があると感じます。空き屋対策にしても、降雪により家が潰れるような事態になったらどうするのか、お年寄りの家の庭は誰が雪をかいてあげるのか、考えておかなくてはならない問題は山積しています。

幹線道路はショベルや補助金によって除雪がおこなわれていました。が、この点でもこの先が心配です。以前は区の役員がお年寄りのところに行き、みんなが除雪に行ってくれましたが、自分たちが役員を辞めてしまえば、誰もやってくれないと思います。

サラリーマンで仕事に行く人が多いため、近隣住民の方々の為に除雪をするゆとりがありません。その為にもネットワークシステムを作らないと、田舎がいくら良いと言っても、ひとたび便利な都会生活になれた若者は故郷が沼田であっても、沼田には帰ってなど来ないと思います。こうした状況では収入面でも、残念ですが生活基盤を沼田に持つというのは厳しい面があるように思います。

先ほどの発言にありましたが農家は大きく立派な所得を得ている人と、そうでない人がおられる趣旨の発言がありましたが、家庭菜園として楽しみながら作物を自前で作っている人は趣味の園芸耕作で良いですが、私はそうした取り組みは農業では無いと思っています。経済活動としての農業と、趣味の農作物作りとを区別し、職業としての農業の未来をどうするか考える必要があるように思います。

農協の前組合長と最近、話をする機会がありました。共有林についての話題でしたが、昔は共有林から薪となる燃料などを取っていたそうです。当時は百何十名とかの人が、ひとつになっていて税金を払っていたそうで、今は共有になっているから良いが、あと10年もすれば税金を払う資金が枯渇し税金を払えなくなるという話でした。不在地主が増えていく中で、共有林としての利用やその為に発生する責任としての税金の支払い不能事態を招くというのです。

過去には共有林の木を切って売れば良いケースもあったようですが、福島原発のメルトダウンによる放射能汚染があって以来、それも売れなくなってしまいました。薪として切って燃料として燃やしても放射能汚染で駄目という訳です。納税という観点から、こうした状況に置かれている農林業の方たちを沼田市が何らかの方策を急がないと共有林の役割や価値が失われ、その結果、森林が荒廃します。保安林にすれば税金が掛からないですが、その代わり木が切れなくなってしまう。するとこの場合でも森林の荒廃が進み野生動物がどんどん人が住む近くにまで出没し畑を荒らすという悪循環に陥ります。その辺のジレンマ、そういう問題を何とか解決して欲しいと言うのが、地域に密着してきた一人として痛感しています。

<アドバイザー>

ありがとうございました。自然災害の際の高齢者避難対策が個人情報保護法等の制約で、思うに任せられないもどかしさがあるというご指摘でした。こうした問題に何とか善意の風穴を開けられないかというお話であったと思います。

加えて空き屋対策を含めた、雪害時等における減災の地域ネットワーク作りの問題など、地域を守る切実なご提案であったかと思います。

共有林の管理、伝統的な互助精神の「入会（いりあい）思想」による中山間地の暮らしを支えてきた豊かな自然とのつながりが人口減少を原因として、責任の所在さえ不透明になっているとの問題提起と共に、山林の所有権問題が絡み、このままではさらに問題が複雑化し、どうにもならなくなるという危惧からのご指摘だったと思います。次の方、宜しくお願いします。

<委員>

私、今日は発言をさせていただけると予想しておりませんでしたので、これまでの皆さんのように考えがまとまっていませんが、思いつくままに発言させていただきます。

私は物産振興会・若手の会の代表として、観光の視点から沼田市の活性化が促進されていくと良いなと考えています。

沼田市にはまだ手つかずの素材やソフトがあり、これからそうした情報を発信していけば沼田市を代表するような観光資源の活用の余地があると思っています。例えば私が暮らしている玉原高原の自然は都心から驚くほど近く世界が変わるような深い、手つかずの自然があり、こうした自然を活用する手立てはないものかと思います。

私たちには当たり前のように映っている自然ですが、見方を変えれば驚くほど豊かな自然が手の届くところにあります。こんなにも多くの多様な植物がある国というのは珍しいということで、今は海外から日本に観光客が増えているので、そういう意味でもこれからどんどん、身近な誇るべき自然がある事を情報発信したいと考えています。

その為にも、できれば、今後も具体的な提案をさせていただけると良いと考えています。市役所の担当部局の方と話し合いの場が設けられたらと思っています。

<アドバイザー>

誇るべき自然を新たな観光振興の素材として多面的に活用したいというご発言でしたが、是非とも、ご提案され実現に向けて取り組んで頂きたいと思います。

<委員>

よろしく申し上げます。

<アドバイザー>

手つかずの自然資源であるものも、観光開発のひとつの例として玉原高原の再評価をPRし、世界的な観光資源の素材にして、活性化を図ったらどうかというご提案だと思います。具体的なお話がきっとあるのだらうと思いますので、また時間が許す限り、後ほどお考えをお聞かせ下さい。

<委員>

すでにいろいろなお客さんは訪れていますので、協力して下さる自然に詳しい方とか。

<アドバイザー>

NPOは無いのですか。

<委員>

あります。あるので、そういった団体の方とか。

<アドバイザー>

良いことですね。この地域をアピールするというご提案、よくわかりました。

それでは、次の方宜しく申し上げます。

<事務局>

この委員さんは、本日、欠席ですので事務局からご本人様に成り代わり概要について報告をさせていただきます。未来の沼田に必要なこととは、市民一人一人が、痛みも受入れながら沼田市の将来をより真剣に考える、市民の幸福について考えることが必要ですというご指摘がありました。

具体的には若者の雇用の受け皿の拡大、またコンパクトシティ、観光や農業の広域連携、こういったことが必要だというご意見です。ただ、今回、欠席の委員さんから欠席に際して、このことだけは会議において必ず伝えて欲しいというものは承っておりませんので、私がこの資料の内容について、かいつまんだ説明ということでご了解いただければと思います。以上です。

<アドバイザー>

ありがとうございました。委員の代理発表ですけれども市民の自覚がこれまで以上に必要だというお話と、未来の沼田市を考える際のコンパクトシティに関する踏み込んだ計画、あるいは未来を描く際には、ある程度の痛みも了解する覚悟が大切だというご提案だったかと思います。それでは、次の方、お願いします。

<事務局>

引き続き、この委員さんもお欠席ですので事務局からご報告させていただきます。まず観光部門において、シンボリックなものということで、天守閣を作り観光の核としたらどうかというご提案でした。ただ条件として、市の財政負担にならないような形で進める方が良いというご提案です。

沼田の魅力の情報発信ということで、沼田が誇る地域力、これらをもっと情報発信をしたらどうかというご提案です。また、農業部門につきましては、6次産業化、特に、こんにゃくを使った六次産業化を進めてはどうかというご提案です。以上です。

<アドバイザー>

市の財政に負担をかけない資金計画を基礎に、天守閣を作るというご提案に加え、こんにゃくの6次産業化のご提案だったと思います。加えて、沼田市の魅力の情報発信。これはどなたも表現は違いますが、ご指摘が重なっており、沼田の未来について皆さん、同じく厚い思いをお持ちで議論を深めれば市民的な理解も広がりそうですね。

農産物の6次産業化、これも地域活性化・農業振興というご提言と重なると思います。それでは、次の方をお願いします

<委員>

労働組合から選出されてこちらに伺っていますので、勤労者、働く者の立場として提案を2点ほどさせていただきます。

ひとつは労働対策に対する率先垂範ということで、働く者にとっては長期にわたって安心して働けることや、安定した収入が得られることが大切な点だと捉えています。安心して結婚でき子供を持つことができる、それがひいては地域の定住に繋がっていくものと考えます。

特に収入以上に働く職場の従業所の環境が重要になってきますので、こうした部分に対して自治体が行っている公共事業の入札などにおいては、労働安全衛生等の社会的な価値や、コンプライアンスの遵守性など、併せて評価するような総合評価方式を導入することで、地域に移住する会社の労働環境や企業のコンプライアンス（法令順守）が上がり、働く者の労働環境も促進されていくと考えています。そういったところから優良企業に勤める人も雇用が安定し、人口の確保、就労人口の確保に繋がっていくと提案させていただきます。

それともう1点。労働教育の充実です。社会人として仕事を通じて人と人の交流の場を有意義な環境にする、体験型の学習など、労働教育のカリキュラムの工夫によって就労意欲を醸成することや、働く人の価値観や就労感といったものを醸成することも大切です。

また労働法制をはじめとする社会のルールのひとつであるワークルール。これを知らなければ自分の勤めた会社がブラック企業かどうかを判断できるという自覚を持つことが重要です。果たして自分が置かれている労働環境は他の人と比べてどうか、最低限ルールが守られているのか。そういったところも判断する基準を沼田市で働く方々が自覚できるような取り組みが必要かと思えます。

そういった労働教育もしていくことによって、沼田市に所在する各企業では安心して働けるという安心感が、安定した雇用の創出につながるように、働く者の立場から沼田市の未来を考えていきたいと思います。自分の働いている会社の環境を良くすることによって安定した雇用の創出につなげていく、沼田市として重要な雇用環境の安定した創出に繋がっていくというところで労働環境の向上を提案させていただきました。以上です。

<アドバイザー>

ありがとうございました。沼田市にある企業の労働環境の整備・改善が雇用の促進や安定化に貢献していくという観点からのご提言だったと思います。

発表時間の5分を気にしすぎて、皆さん早めに終わられているようですが、折角の機会ですので、時間については必要でしたら遠慮なく、ご提案下さい。

途中で発言者の方に質問したい方がいらっしゃったら、どうぞ遠慮なく挙手の上、発言者に質問してください。その先例として質問したいのですけれども、沼田市の労働環境は専門的に見て、他の街よりも相当に悪いのですか。

<委員>

悪いということは無いと思います。

<アドバイザー>

では、良いわけですね。

<委員>

とは言えないですが。

<アドバイザー>

例えば、どういう理由によって労働環境に危惧される場所があるのでしょうか。

<委員>

大きな企業が無いこともあり、その分、中小企業に対しては労働組合自体が存在しなかったりする会社が比較的あります。渋川市とかと比べるとその傾向が多いので、そういったところで労働環境ってどうなのか、いまいち把握できないという部分が多いと思います。

却って、前橋市や伊勢崎市ですと比較的中小でも労働組合を作っているところがあって、情報交換ができるので、そういった条件が具備されている地域では労働環境はある程度、水準を保たれており、そういうところは分かります。

<アドバイザー>

組合が無くても、例えば委員さんが調査して、同じかどうかというのはなかなか難しいのですかね。

<委員>

政策制度としてこういったものを出して沼田市でもやりたいとか労働環境としてこういったところをやりたいというのは群馬県に対してはある程度できると思います。各自治体に対しても連合として出させていただいています。そういった中に組織の中

の人が半分、組織以外の人が半分入った統計データを使っていますので、そうした中
である程度把握はできていると思います。

<アドバイザー>

わかりました。いわゆる法的な意味でのコンプライアンスの向上に努めながら労働
環境から活性化につなげていきたいというご提言ですね。人らしい生き方を支えるひ
とつとして、働き方がこの地域の未来を良くも悪くもするというご提案ですね。

<委員>

そうですね。

<アドバイザー>

わかりました。足りなかった方は、専門性に立ったお話であると思いますので、発
表者の委員さんに質問して補ってください。では、次の方お願いします。

<委員>

私の提案は、沼田市に観光客に来てもらい、観光客を呼び物にして特に産業の振興
を図るとというのが私のプランです。その為には現在も進んでいる公共事業、それから
実際には公表されているくらいの具体的な計画にプラスして、観光客の呼び込みを取
り入れていければ、沼田はさらに良くなると私なりに考えました。

具体的には、戸鹿野橋の架け替えの大事業ですが、これについては県の方では公に
架け替えをしますと発表を続けています。そうするとあの橋ができると、17号から
新町に入って、利根実にかかるという道路のアクセスが非常に良くなります。こうし
た事はひとつの可能性を広げる手がかりになると思います。

それと沼田市で進めている環状線の栄町地区についても、今も工事をしていませ
けれども道路の拡張工事で広がったところを舗装しています。用地買収も進んでいま
す。そうすると利根実から角屋工業さんまではそう遠くなく実現すると思います。

沼田市のプランとすればさらにそこから国立までというのがありますが、
とりあえずは、今言った角屋工業さんから利根実のところに行って戸鹿野橋という
ところが広がります。この広がった道路を単なる人が通過するだけでなく、沼田市に
来ていただいて、沼田市の経営が豊かになるようにしていっていいのでは無いかと
いうのが、私のプランです。

利根実のところから角屋工業さんのところに、民間主導で声をかけられるところ
には声をかけ、特産物の直売所や観光案内をする。こういった拠点で新鮮野菜を売り、
試験的に6次産品にはこういうものは良いと、PRするチャンスにする。

新鮮野菜等の先行販売をすると同時に、沼田市の旧所・名跡・リゾート施設などを
案内する拠点にすれば効果的です。環状線を通して来た人たちに沼田市の観光案内が
できるところがあれば良いと思います。

先ほどから話が出ていますがけれども、沼田市にはこんにゃくや米も大変おいしい、
リンゴも関東では非常に有名です。今こそ、こんにゃくやコメ、リンゴなどPRにな
る特産品を大々的に宣伝すべきだと思います。地域が誇る生産物を今まで以上に他
府県の人たちに宣伝すれば沼田市の活性化につながるのではないかと考えています。

ただ、私が若干欠けているのでは無いかと残念に思うのは、沼田市は森林文化都市

と大きく標榜していますが、実際、その標語にふさわしい運動や市民を含めて他の地域の人たちにアピールしていないと思います。厳しい見方をすれば、この点ではほとんど手を尽くしていないと思います。その森林を若者に来てもらえるような森林に、一部手を加えて利用方法を作り変えて行けば良いのではないかなと思います。

若者が求めているのは体を動かすアクティブな場所やそうした機会です。若者を呼び込むために森林を活用したアクティブに体を動かし汗をかけるような施設を作ってはと思うわけです。進化する森林施設と言ってもいいでしょう。何をイメージしているかと言うと、一旦、作った物をそのままにしたのではリピーターにつなげる事はできません。参考にするならディズニーランドを参考にすべきだと思います。そういった意味で「進化する」と表現しましたが、やはりニーズを捉えてどんどん内容を変えていけるような、そういう施設作りをする。

ひとつの提案として川場村立岩地区というのがありますが、沼田市から横塚を通過して川場に入ってすぐの左側に小高い丘があります。そこに若者がアドベンチャーを楽しめるような施設を作ったらどうかと思います。イメージは東急リゾートです。なぜ東急かと言うと、ご存知の久米民之助さんが東急と関係が深く、話を持って行くには東急に話がしやすいと思うからです。

どこまでも民間主導でアクティブな活動ができる施設、進化する施設を、作ってはどうかと思います。若者が集まれば、次には家族連れが集まるようになります。観光を兼ねた産業、若者が沼田に来ることによって、多くの人がやってくることになる。それが私のプランです。以上です。

<アドバイザー>

ありがとうございました。広範囲にわたる問題とその解決策の問題提起だったかと思えます。具体的には森林文化都市という市のキャッチコピーにふさわしい「進化する森林施設整備」やその活用としての「アドベンチャー型の施設」を民間主導で構想してみたらどうかとのご提案だったと思います。

特に道路関係では通過型の道路整備が見えてきた段階で、そろそろ滞留型の施設を作りながら、必要なら地域が誇る農産物販売ができる売店を作るというようなことも、これからは、現在進められている公共工事に対して、産業振興になる施設整備を考えてはどうかというご指摘だったと思います。

では、次の委員さんお願いいたします。

<委員>

皆さんに追加資料としてお渡ししたものを参照してください。私はインターナショナル・スクールということを提案させていただきました。

最初に沼田市の未来を考える場合に、大切なことは、2つあると私は思いました。ひとつは未来という時間軸をどれくらいのスパンの未来として考えるのかという点です。私たちの孫のような世代が将来、ふるさと沼田市を誇りに思えるような市にするということが、ひとつの大切な具体性のある目標かなと思いました。

2つ目は、それを考える際に、沼田市を外から見つめ、考えることが大事ではないかという点です。この2つの点を考えて私は以下のような提案をしたいと思います。

そこで、この提案を考える手がかりとして、私の友人で伊香保町に住むイギリス人に相談してみました。いろいろな考え方を持つ人に、可能な限り広範囲に、そうした問題を聞きたいと思ったからです。その結果インターナショナル・スクールという結論を得ました。

まず沼田市民が見て誇れる要素、特徴というのはどこにあるか。先ほどから皆さんから意見がありましたけれども、やはり豊かな自然と先人の築いた歴史と文化、この2つだと思います。この特徴は今後も絶対守っていくべき対象です、さらにそれを発展させるために、どうしたら良いかというところがポイントではないかと思いましたが、そうした考えの末にインターナショナル・スクールという提案が出てきたのですが、この提案に皆さん突拍子もない印象を持たれたかもしれません。

そこで、少しインターナショナル・スクールがどんなものか説明させていただきます。このスクールは元々日本に居住する外国人の子どもや、あるいは帰国子女のために設立された学校です。しかし、今、現在は日本の親が子どもに早く英語に触れさせて国際的に活躍する人になって欲しいという、親たちが非常に増えており、そうした子供たちも入学しています。背景には文科省が2018年度から小学校の英語の授業時間を増やす事や、これが2020年には正式科目にすると打ち出しているように、国を挙げて英語教育に力を入れており、そういう背景もあると思います。

日本では少子化のために学校の統廃合の厳しい現実についての説明が、先ほど篠田先生からもありましたように、私立大学は勿論そうですが、一方インターナショナル・スクールの要望というのはむしろ高まる一方です。それを沼田市に誘致、あるいは設立した場合、どんなメリットが得られるかということになりますが、これは当然沼田市の子ども達も入学できる可能性が当然あり、やがて大きく認知されていくと思われれます。

それから外国人の生徒を沼田市に呼び寄せることができます。先ほども報告があり、お聞きしましたとおり既に500人の外国籍の人が沼田市に住み、ここに来られているということですが、そういった人達にも学べる機会を与える事が出来るということです。

もちろんそこに人と人との国際交流が生まれ、沼田市の自然・歴史・文化、そういったものを知ってもらえる機会を彼らにも知ってもらえ、与えられると同時に、当然国際交流が始まります。沼田市民も身近に外国の文化に触れる機会も多くなると思います。もちろん若い生徒が居るということは沼田市の活性化にも繋がりますし、スクールで学んだ子どもの中には、将来学校を卒業して海外で活躍する人も出てくる可能性もあります。当然、沼田市の知名度や国際ビジネスへの発展も考えられるでしょう。

それからインターナショナル・スクールに伴った雇用、あるいは関連したお金が沼田市に落ちることにもなると思います。何よりも沼田市がこのインターナショナル・スクールをつくる立地条件が整っている事に気づくことが重要です。沼田市とその近隣の地域というのは、先ほどもお話があったように、生徒にアウトドア・スポーツを存分に楽しませることが出来る、たぐいまれな天与の特色を持った地域です。

冬はご存知の様にスキーやスノーボード、夏はカヌーやラフティングなど、自然を

相手にしたスポーツには事欠きません。あるいは春や秋はハイキングとかキャンプとか登山。こういった取り組みや経験はインターナショナル・スクールの教育活動に非常に重要なものだと聞いています。

更に沼田でも盛んな農業や林業といった第1次産業も直接触れる機会を与えることにもつながると思います。これは先ほどもいいましたように、生徒やその親にとって大きな魅力であると思います。学校に伴う寄宿舎というものを作った場合は、そこで支払う費用というのは東京あるいはその近辺などに比べれば、半分程度で済むというふうに聞いております。その事実は沼田に来る生徒や家族にとっても、またそうした方々を受け入れる沼田にとっても、相互にメリットがあります。

というのは、私のイギリスの友人はインターナショナル・スクールの先生だったこともあり、彼から伝えられたこうした話には誇張が無いと思います。彼にはいろいろなツテがあり、スクールについても多くの事を知っていますので、こういう話もしているわけです。

それから先ほども話があったようにインターナショナル・スクールを立ち上げた場合は、廃校となった校舎を活用でき提供出来ます。寄宿舎を併設する場合も空き屋や廃校舎なども使えるのではないかと思います。大きな魅力のひとつはやはり生徒の親たちは東京近辺に住んでおられる方が多く、その場合は新幹線や車を使った場合、片道2時間程度で行き来できるということは、親にとっても非常に安心な条件になると思います。

最近の例で、新聞に載りましたけれども、旅行大手の会社が北海等のニセコに外国からのスキー客が多くやってきて、そこで4週間のサマースクールのインターナショナル・スクールを開設して、地元の若い人達が海外に行かずとも異文化に触れて帰ってくるという記事が出ていました。

言葉の壁を乗り越えるやコミュニケーション能力を養えるというメリットもあり、非常に好評であると聞いております。沼田市の場合も大きなものでなくて、小さなサマースクールあるいはウインタースクールといったものから出発しても良いと思っております。

冒頭でもお話ししたように、私はやはり、私たちの孫の代が沼田市のふるさとを誇りに思ってもらうことがとても大切な事なのではないかと思います。そうすることが子ども達にも、ふるさとを慈しむ心が芽生えて沼田市に定着してくれるのではないかと思います、インターナショナル・スクールを提案してみました。以上です。

<アドバイザー>

ありがとうございました。私も最初、レポートを拝見して壮大な構想に驚きましたが、今のご説明を拝聴してなるほどと納得しました。小さく始めても、無理なく始めても良い、というお話にはお聞きするうちに肩の力が抜けました。

お話を聞くと5番目に発表された委員さんのご提案とオーバーラップしていますし、最初の委員さんが提案されたお話とも重なっていると理解しました。

豊かな自然とそれに根ざした文化伝統をテコに、規模はともかく1年中四季折々の自然を舞台に、この地域を発信できるやり方や組織はゆっくり考えれば良いという

様な、深く緩やかな話だったと思います。

これまでの委員さんのご提案とも重なるお話で、しかも具体的なお話だったと思います。ありがとうございました。次の委員さん宜しくお願いします。

<委員>

私は商工会議所青年部から来ておりますので、中小企業の経営者という立場から、仲間内の意見を中心に後輩の意見等も聞き、提案をまとめました。

突拍子も無い意見かもしれませんが、ひとつ目は少子高齢化で、特に少子化問題は先生のお話や講演なりを聞き、それが目の前の現実となり始めていると感じ早めの対策が重要だと思っています。

例えば、救急車を呼んでも、すぐに救急車が来てくれない、そういう現実が本当に目の前の問題なのだと感じます。市の財政や予算があっても、後輩とかに聞きますと、もっと子供を生みたいけれども、これから先を考えると実際ちょっと怖いという感覚を彼らは一様に持っているようです。

この先、本当に幸せな生活ができるのか不安がつきまとい、そうした危機感が今の若者の人生設計にもものしかかっていると感じます。人口減少は当然、財政問題につながっており、税収の減少を招きます。先ほどいったように財政の条件にもよりますが、沼田市民限定で、沼田市の病院で産むことを必要最低条件にして、第1子が誕生したら30万、第2子60万、第3子が生まれたら90万円と、そういう風な誕生のお祝い金が準備されていて、出産に際して差上げられれば一番良いと思います。あるいは、出産一時金として一時的に貸すという形でも良いようにも思います。

しかし、計画的に子供を授かる人はそうはいないと思います。アベノミクス効果で今、株がバブル以降最高となっていますが、それでも地方の中小企業にとっては非常に厳しい状況があり、市からの援助が先のような形であれば、そうした制度に反響がおき、SNS等で凄惨な制度を持つ市があるということになれば、また脚光を浴びると思います。これが1点目です。

2点目は逆に沼田市に若者を流入してもらう方法は無いのかという視点で考えました。現時点でアパートを多く抱えている久屋の方とか、空きのアパートとか多くなっていますが、他方では全国的にも賃貸でも新築にすぐさま入居者が入るという現実もあります。築10年近い比較的新しい物件でも、入居者は新築の方に流れる傾向があって、今アパートの空室が非常に目立ちます。供給過剰ともいえますが。

少子高齢化で空き屋が増え、こうした物件に古民家再生の手法で再生させて外国人の方に使っていただくような取り組みが進むと街も面白くなるように思います。1棟改修や今風に内部をリノベーションする試みも大切ではないかと思っています。

なによりも一番は転入してもらうのが目的なので県外の人に募集して最低10年、20年と次の代にも住んでいただく事を条件に、1棟を丸ごとプレゼントするという奇抜なことをやっても良いのかなというふうに思いました。

募集しても来ないようでしたら、市の職員の方も候補として良い、そんな風にしていけるのは1棟かなと思ひまして1棟にさせていただきました。

<アドバイザー>

子どもを安心して産み育てられる少子化問題への提言を頂きました。これに対して沼田方式の子どもを増やす名案について、出産祝い金のような支援へのご提案でした。それから人口を増やすために、空室が増加するアパートを含め、そういう現状の中で空き屋対策、条件付き空き屋対策へのユニークな提案があったと思います。

外国人にというお話も一部発言の中にあり、その点では先ほどの委員さんのご提案とも重なる部分もあったとお聞きしていました。ありがとうございます。

次の委員さんお願いいたします。

<事務局>

欠席ですので委員さんのご意見について、事務局から説明をさせていただきます。少子高齢化、人口減少を迎えるにあたって将来の沼田市ではやはり若者が定着し子どもが育てやすい、そういった環境作りが必要というご提案でした。具体的には雇用の確保、あるいはトータルとして子どもを産みやすい環境や子供を育てやすい環境、こういった環境整備が必要であるというご意見でございます。以上です。

<アドバイザー>

今の代理報告は、先ほどの委員さんの発言、子どもを安心して産み育てられるような対策の問題と、それから若者の雇用確保という視点から地域への企業誘致や起業創生という問題と重なります。ありがとうございました。

次の委員さん、よろしく申し上げます。

<委員>

これまで各委員さんの提言をお聞きして、私の提言や意見がその他の方々との提言や意見と重なっておりますが、私が調査を元に現実的な目で見てみた点について報告しつつ、意見を述べさせていただきます。

現在沼田市の人口は、男性が2万3892名で女性が2万5120名、合計4万9012名です。世帯数では2万525世帯。先ほど委員さんのご指摘にもありましたが、うち外国人世帯数が504世帯あり、外国人のみが364人。日本人との結婚による人が140名で、これは外国人と日本人が結婚している数です。沼田市の世帯数は以上のような実態です。

統計上の年次別の人口の総数で見ると1997年から2017年までは、子ども出生数は10万8818人マイナスだったそうです。2007年には10万1847名と統計上からいくと、既に昨年度より生まれた子ども出生数が3万6千人で、全国でマイナスということとなっています。

先ほど取り組むべき課題内容ということで国土交通省が調査した結果、豊かで住みやすい要因と、豊かで無く住みにくい要因を調査して、目を通してもらうと分かるのですが、タイプ1、タイプ2、タイプ3、タイプ4ということで分けました。この状態を後で目を通しておいていただきたいのですが、沼田市の地域の住民のニーズや予

想される社会的な変化の対応の中で、様々な課題を解決していく為の地域づくりに取り組むことが避けて通れない課題になっている事が分かります。

2枚目3枚目の下記に住みやすい要因と住みにくい要因を上記掲げた内容により、特徴を見てみました。人口が30万以上とか10万以上とか30万未満に比べて、住環境が良好と自然環境が良好というのがおおむね1位2位を占めます。これらの数字から沼田市の人口が現在4万9千人とすれば1万人以上に当てはまり、5万人に近いような自然環境と住環境が良好ということになります。

今後の人口減少を抑制し、空き屋対策を人口増につなげる工夫として若い人に対して安い家賃で街なかに居住できるような仕組みを創設しながら転入促進を促す、そうした受入窓口を早急に開設する。

田舎暮らしに興味のある首都圏在住者や過去10年間の20代から30代の転出した元市民に対しても、結婚、出産、子育てが安定できるような福祉医療体制の無料化ないし半額負担の魅力的な住環境を実施していくべきではないかと思えます。そうしていけば若い世代にも転入を考える人が増えていくと思っております。

手元にある資料は2月9日に区長会と市会議員の意見交換会の際に、さらに詳しく資料を提出しようと思っております。作成中ですのでこういった問題等を細かく進める上では、今後このような人口減少・世帯数の減少、それから若者の出生数が減少しているところを、どのようにカバーすべきかという問題を課題として今後この課題解決につなげていかなければと思っております。以上です。

<アドバイザー>

ありがとうございました。具体的な資料を基に未来への課題を数字から説き起こして頂き少子化への問題提起をして頂きました。沼田の少子化は止められないことが明らかになっている。そのためには豊かで住みやすい要因として自然環境が良い、住環境が良いことをひとつのプラスの条件にして5万人弱の4万9千人程度の沼田市を、さらにボトムアップするために新しい人口増加政策を、転入をしてくれる人を基本に考えたかどうかというご提案と問題提起だったかと思えます。

委員さんの冒頭のご発言にもありました、いまの報告はそれぞれの委員さんが仰ってくださった人口を増やす、産業を盛んにする、空き屋対策を行う、その他、観光振興を行う話と、ある意味では重なっていく、あるいは基本的な条件整備のご提案でもあるかと思いました。次の委員さんをお願いします。

<事務局>

それでは事務局から委員さんのご意見をご報告をさせていただきます。AとBという形で2つの方向から提案がございます。まずAとして、少子高齢化、人口減少社会において、日本人が長い間培ってきた文化・生活を覚悟・継続して行くことが必要だ

との提言です。①から⑧までコミュニティの在り方、郷土愛を育むということのご提案がございます。またBとして観光についてのご提案でございますけれども、観光を推進するに当たって、都会の人や観光客の目線から、そういった視点で①から⑦の提案がございました。以上でございます。

<アドバイザー>

少子高齢化対策として日本人の人間関係、特にコミュニティの再構築ということでご提案があった旨の報告でした。これは3番目にご報告いただいた委員さんの報告と重なるようにも拝聴しました。

自然災害の避難対策でも、地域のネットワーク作りがある意味では危機的状況になり始めているというご指摘と共に、それに代わる新しい人間関係の再構築が急がれるという指摘でもあると思います。

日本人の地域コミュニティの在り方が崩壊する、これを何とかしたいというご報告と重なるように思いました。では、次の委員さんをお願いします。

<委員>

私は福祉関係から専任されている立場から、こうすれば観光客が増えるのではないかとの思いから、いささか長くなりましたが、提言しました。

まず「買い物」難民という問題です。どこの市町村でも一人暮らしの高齢者が増加しています。こうした方は交通機関の利用が制限される傾向にあり、買い物がなかなか大変です。沼田市には敬老バスカードや障害者の方へのタクシー券サービスが展開されていますが、特にバス利用の場合には、停留所まで行くのが大変で、しかも停留所から下りて買い物をするのが更に大変だというお声を聞きます。

こうした苦勞を分かっている、高齢者の方々が、自分の目で食品を見て確かめ、必要な品物を選んで買うのが一番の喜びだということもお聞きします。そうした現状の課題解決には移動サービスを検討する時期に来ているのではないかと思います。

一昔前は移動サービス販売車が各村部を回って販売をしていましたが、現在ではそうした話も聞かなくなりました。一部では移動販売が全国的に展開されていますけれども、一つの品物に10円をプラスして移動販売業者の収入になるなどの配慮があり、きめ細かなサービスが展開されているそうです。しかし沼田市にはまだそうした動きはありません。

一部のコンビニエンスストアでは電話で注文をするとそうしたサービスが受けられるという話を耳にしていますが、難しい問題もあるようです。こうした問題解決の為にはヤル気のある方に起業して頂き、移動販売をして下さる人に社会福祉法人や社会福祉協議会にも関係して頂き、NPO法人に制度化を促してもらい、車両配備などきめ細やかなサービスをしていただくよう考える事がこれからは必要かなと思います。

これに伴い、民生委員さんには一人暮らしの状況等を確認して頂いて、この方だったら買い物タクシー券を発行して活用してもらうなどの判断をお願いするという事も必要かと思えます。年間2千円程度ですが近隣の友人同士、あるいは話し合い等によって複数の方がまとまって500円ずつ出し合って買い物に行くというようなサービスも良いのではと考えます。

渋川市ではこのサービスを行っているというようなお話でした。可能であれば、例えばフレッセイですとか、サンモールですとか市内の業者にバスを出してもらって、その地域の人が曜日と時間を決め、バスでスーパーまで買い物に行くツアーバスがあれば利用者にも便利でお店にも良いかとも思います。

2番目ですが、高齢者が気軽に集まれる施設、仮称ですが「高齢者ふれかいカフェ」を、街なかの空き店舗等を利用しながら、軽食あるいは喫茶を提供するお店を出す。毎日そこに行けば話し相手が誰かいる、そこで出会ったお友達も新しくできるような施設（場所）を考えてはどうかと思えます。既存の喫茶店については多少問題があるかなという感じがしますので、この為には、ここを利用できる人に特化した施設利用という視点が必要かとも思います。

デイサービスを利用している方々、そこに行って1日を過ごす方、それほど重度でない方、いわゆる支援の低い方々がこうした所に行けば、介護保険サービスの経費の軽減が図られるのではないかと感じて提言書に記載をさせていただきました。

3番ですけれども、地域マネー、地域通貨ですが、社会福祉協議会等が展開している住民サービスの一つですが、まず提供する側とそのサービスを受ける側、会員になってもらって社会福祉協議会等が中間に入ってサービスのやりとりをする。1サービス当たり500円程度で金銭のやりとりは無く、地域マネーでやりとりができるということで、利用会員は地域通貨で作業料金を支払う、提供した会員は他のサービスを受けるというシステムですが、上から3行目くらいの所にちょっとした通院の介助、先ほども雪かきの問題が出ましたけれども、雪かき、庭の草むしり、ゴミ出し、モノの片付け、電球の交換、お墓の掃除など。業者に頼むには頼みにくいというところを地域の住民がお互いに助け合いながら、このサービスを推進できればというふうに考えております。

4番目は観光客の集客・増加を考える問題です。まずは河岸段丘で有名になっている部分もあります120号のやや大きな空き店舗を利用しながら、河岸段丘ミュージアムとして、河岸段丘についての見学・学習をする館を作る提案です。できれば河岸段丘のPRをしてくれたタモリさんを名誉館長として委嘱をし、沼田をPRしてもらおうと観光客の増加につなげる事が可能かと思えます。②は沼田公園には年間を通じて訪問客があると思うのですけれども、冬の間は観光客が極端に減少する事が想定出来

ます。そのため、冬期の雪の時には「雪の鐘楼」の素晴らしさを見て頂く、これらも沼田市の観光の目玉になるように思います。金沢の兼六園のように雪つりをしてあげば、冬期でも来て楽しんでもらえます。経費は若干掛かりますが冬の観光客誘致には繋がると思います。

市内では歴史的な、あるいは文化的な建造物がたくさんあります。生方家、土岐家の洋館、貯蓄銀行、沼田教会、建築年代に合わせたその時代の写真、あるいは町の様子、農機具、生活様式、古文書などを展示して学習機会を高めるということもひとつの観光客増加をはかれる素材だと思います。坂の町で大変ですが、レンタサイクルによるサービスを開始し、貸し出しや返却場所は複数箇所に配備し、どこでも借りられ、どこでも返却できるような、観光客に便宜を図る観光の施設巡りをさせていただく為のシステム構築が有効ではないかと思います。

④、昨今、登山愛好家がかかなり最近増加していますが、市内の山の登山ハイキングコースの整備、初級・中級・上級を設定し、沼田〇〇名山と命名し、それぞれのやまのビューポイントをアピールしながら市外の愛好家を呼び込むということなども必要か思います。登山後には、老神温泉あるいは、しゃくなげの湯、望郷の湯などの泉質の違う足湯の場を整備して、次の観光客の誘致、あるいは宿泊につなげていければと考えています。

近隣の村では統一された村内案内板、川場村のことを指していますが、茶色の統一された看板が公共施設あるいは観光施設、史跡などにわかりやすく複数箇所に案内がされているので、沼田市もそういった統一された案内板があれば観光客・市外からのお客さんも、次の目的地を模索するのに良いかなと。

インバウンドを意識しながら、英語・中国語・韓国語、それからオリンピックのドイツチームの合宿があるということで、ドイツ語表記を行って、優しさの町、思いやりの町をアピールする事も大切だと思います。

委員さんからも耕作放棄地が拡大しているという話がありましたが、趣味等で農業に取り組む都市部の方も多いと聞きます。沼田市では「農活」ということでメンバーが積極的に交流を図っていますが、耕作放棄地を一部有料で提供していただき野菜等の生産を通して都会の方との交流を進めるという方法も検討して良いのではないかと思います。

あるいはそこに農業指導者を配置し農器具の貸し出しなどの便宜を図り、収穫や耕作者同士の地元住民との交流などに発展していけば、新たな可能性へとつながるよう感じます。レンタル耕作地を大々的に拡大・展開して、遠くからの利用者のために宿泊可能なコテージを整備し、専門知識のある方を農業アドバイザーとして配置し、農業に関する指導や沼田の特産物のPRなどを行っていければと思います。

年間契約していただき、宿泊して頂くことを前提に、準市民的な感覚で沼田を楽しんでもらえればと思います。一部白沢町の下古語父ですけれども、いわゆる茅葺きの屋根の民家が何軒かあり非常に懐かしい田園風景が見られ、こうした景観を活用して農家民泊、民宿を大々的にPRし、その良さをアピールしながら、農業振興が出来ればと考えています。親戚が農家民宿をやっております、そのメンバーの中に博報堂から内閣府に出向している者がおり、農水省からの補助事業を勉強しながら、かなり積極的に展開されておりますので、そういうことを全市的に展開できればと考えております。

あとは沼田地区のお寺さんの協力ですけれども、七福神の像が各お寺さんに8寺あると思いますが、「七福神のお寺」ということで銅像を造っていただいて七福神巡りを企画する。お寺の歴史や各寺院に眠る歴史上の著名人、小松姫等のお墓もありますので、それらを文化と歴史の町として沼田をアピールしていければと思います。

また、そのお寺さんに協力をしていただいて、春と秋の七草をそれぞれのお寺に植えていただいて「七草の寺巡り」というような寺院巡りを楽しんでいただくのもアイデアとしては価値があると思います。

それから玉原の水がわき出ておりますけれども、この水が非常に良いというので何人かは汲みに行って、美味しい水を活用しておられます。これを沼田市内に持って来て、自然に包まれた美味しい水の町としての沼田をアピールする方法があると思います。衛生面や水の運搬の問題はありますが、水のすばらしさイコール自然の豊かさをアピールできるからです。

沼田市街の東西の通り、例えばお馬出し通りなど、企業や現存の店舗の協力をいただきながら、昭和の町並みづくりに再生して頂き、例えば駄菓子横町を作るとか、手作りの手芸品だとか、趣味・陶芸の作品を展示・販売する施設なんかも作ってもらえれば、横の活性化が図られるかなと感じます。

ご存知のように沼田カルタがありますけれども、ここには文化遺産・著名人の名所や遺跡などが表現されています。沼田カルタを畳一畳分くらいの大きさに印刷をし、その場所に沼田カルタの看板を立てて、皆さんにアピールして行くのもひとつかなと考えます。

⑪では市内の各町では、昔からの風習、季節行事等や伝統行事を受け継ぎながら次の世代に繋げる努力をしていますが、独自の行事を実施して住民の交流を図っている地区もあります。企画課等が関係するかもしれませんが、我が町の自慢コンテスト行って、良い事業は他の町・地区でも交流行事を含めて取り組んでもらえればというふうに考えています。

⑫番のところでは、物産・土産物については数多くありますが、新たなるお土産を

開発して沼田をPRする。六文銭饅頭・六文銭最中・六文銭煎餅といった商品です。企業の協力を仰ぎ新しいお土産を開発できればと考えます。

小中学校の統廃合による空き教室を利用して、委員さんのお話にありました農業・建設業・料理・重機の運転などのいわゆる学校を開設してはどうかと思います。専門的な技能の習得や必要な免許の習得が可能になるよう、宿泊を伴ってできる施設を、廃校舎を利用してできればと思います。

市内には沼田城関係の遺跡があります。真田関係の史跡がありますけれども30分コース、1時間コース、半日コース等に分類・整理をして、史跡・文化をアピールし、観光客を呼び込むことなども良いのではないかと思います。

次に⑮番ですが、先ほどおそばの話がありました。そばはブームになっており、お寺の前に「門前そば」店を出店するなど、田園に囲まれた田舎そばや街中にそば店通りを整備ながら観光地化していけば、全国から多くの麺類愛好家の訪問を促すことが可能です。

⑯では、池田地区では21世紀の森が、夜になれば人工的な光が無く真っ暗な地域です。空気は1年中澄んでおり、ここを星空ウォッチングの里として整備をしてはどうかと思います。駐車場には四季の星座表を拡大表示し、車を降りても勉強してもらえ工夫があると、星空観測愛好家には喜ばれ、星が綺麗に見える町として沼田の台地の活用が出来るにちがいありません。夜景が素晴らしいということでこの辺もアピールしていければなというふうに考えております。

⑰番、空き地が増加しています。先ほどから話題になっていましたが、移住コーディネーターを配備してもらい、Iターン、Uターン、群馬県ではGターンというようなところで大学生に群馬に就職できるようなクラブを作ってもらい取り組んでいる話があります。是非とも人口増加、世帯増加を図るためにも、空き屋情報の情報管理を行政で行っていただき、所有者と借受人の調整を行い、都市部からの人口流入をはかる事が出来るのではないかと思います。

最後に、玉原高原にテニスコートがありますけれども、現在では全く使われていない状態です。新たにバンガロー村として整備をして、最近ではアウトドアに人気がありますので、バンガロー村の設置をして、キャンプ客を呼び込み、玉原の素晴らしさをアピールして行けたらというふうに考えます。以上でございます。

<アドバイザー>

広範囲にわたる提言を具体的に下さり、ありがとうございました。

高齢者の方の買い物難民化への配慮として、タクシーチケットやバスの運行提案など、特に高齢者が自分で物選びができる買い物をするお話など、すぐにでも必要とされている課題提案だと思いました。街なかの空き店舗の活用として「ふれあいカフェ

エ」等も今後、検討に値する議論ではないかとも思いました。

沼田の誇りでもある河岸段丘の博物館が館長をタモリさんにという具体的な話も含めて、ひとつの案としてご提案がありました。当然その中には沼田のビューポイント、あるいはビューポイントだけではなくて、沼田の〇〇名山、登山コースの開発利用、こういった話は先ほどの委員さんや4番目の委員さんのお話とも重なってくるかと思ひながら拝聴しておりました。

沼田市のサイン計画、看板設置の問題は沼田を訪れる方々に、優しく親切な案内表示が人を呼び込めるといふ、これまでも何度か提案されてきたお話もありました。

農業の活性化については詳しいご提案を頂きました。地元と他地域の方々との交流を、農業を通して既存の施設等を活用し、沼田の農業の活性化に資するご提案がありました。

茅葺き屋根の農村風景を楽しむ農家民宿の話は、前々回でしたか委員さんから四国の高知の事例の報告にもありましたが、外国人が茅葺き屋根の農家を大事に改装して、外国の旅行者がどんどん来るようになった成功例につながるご提案だったとも思っています。

それから沼田市のお寺の七福神巡り、これなど面白い縁起物を尊重する私たちには興味ある提案に聞き取れました。

<委員>

これは既に町で取り組んでいます。お寺と民間とで、仏像めぐりをやっています。七福神はないものですから、各神社、お寺、仏閣に仏像があり、街中にもありますので、それをやってはいます。

<アドバイザー>

七福神の始まりは中国からのものですが、日本の福神さまの信仰としては神道が中心ですが、江戸時代に入り商工業が栄えその結果、民衆の間で「七福神信仰」が盛んになりました。有名なのは「今宮戎神社」はエビス（戎）様で全国的です。

「七草の寺院」巡り、これは結構、季節性に富んでいて健康ブームと重ねて考えると健康長寿時代の空気にあい、やり方次第では、効果がありそうですね。

玉原の水、水ビジネスは日本中で進んでいますが、玉原の水源活用に際して外国の方によって水源地が買われていないか、危惧してお聞きしていました。

<委員>

目を付けている中国人が居まして、何人か来ています。

<アドバイザー>

伊勢神宮の前に流れるこの水源となっている山が朝熊山（あさま山）ですが、この水源地も外国の方が買っていたと分かり、関係者の間で大問題になりました。国が入

って元々の持ち主に返すよう決着が付いたというようなことで、水ビジネスが目を着けられていますので、早めの調査と権利確保が大切ですね。地域の自然を未来への貴重な財産として残しつつ活用するというのは、この地域の強力なアイデンティティーではないかと感じます。他の地域と競争できる、競争力の根幹になると思います。

その中の一つが水であり空気であり風景であり。次には、そこで収穫される豊かな農産物等の物産です、こうした素材の活用が求められているに違いありません。

<委員>

お土産でいえば、既に、六文銭も8店舗に作ってもらっています。

<アドバイザー>

それらのお菓子は美味しいですか。

<委員>

美味しいお店の商品もあれば、まあまあのところと、いろいろです。

<アドバイザー>

玉原のお話は、10番目の委員さんのご提案とも重なり、皆さんが仰っていることが重なり、それが自然であり、その活用という、それぞれのご提案になっています。

時間がまだあるそうですから、言い残された事や、私が言いたかったのはこういう事だった等、補足がありましたら、遠慮なく追加してご発言してください。

<委員>

今、先ほどの買い物難民の件で、10年前に既に県の支援を受けてやったことがあります。それでいまでも続けています。

高齢者施設に対して、依頼のあった品物の買い物をするのです。お菓子類から衣服類も全部、買って持って行く。これは今でも商店街で続けています。続けている中で、やはり問題点がいくつか出てきているのです。

先ほど言った個人情報の問題です。独りで暮らしておられる方の詳しい情報がないと、折角の支援体制がうまくかみ合っていないのですよ。民生委員さんとかとも話をして合同でやりませんかという話も議論のテーブルに上げましたが、市の方が個人情報は表に出せないという理由で、この話は途中で中断してしまっています。

どうにかして、こうした地域の問題を解決するためにもう一度、復活させて買い物難民問題の解決につなげてあげたいと思います。そういう時期に来ているのは確かです。スーパーや民生委員と協力しながら多角的に手を組み再度、復活させようと話をしています。

<アドバイザー>

ご本人である難民認定された高齢者に、こうした支援方法がありますが、情報を開示しても良いですかということは、親族を交えて聞く事も不可能なのですかね。

<委 員>

聞けますけど、それをしていないものですから、その辺、どうにか情報開示をしてもらえないかと話をしています。

<委 員>

個人情報という、法的な縛りの壁が大きいですね。

<委 員>

全く、大きいですね。いろいろなところで手がけてやろうと思っても、個人情報という壁で、支援に必要な資料が出てこない。ないと何もできない。それでうまく回っていけば良いのですが、あれば何かあったときには、すぐ分かり迅速に手が打てます。近くに住んでいる人は皆さん理解していますが、その中心に言うちょっと難しい。チラシを配りやりました。1回500円で水道管の修理とか、お風呂の電球交換とか、掃除とか、カーテンの取り替えとか、やってはいたんです。

<委 員>

この会議の方向性なんですけど、皆さんいろんな意見が出ていますが、お聞きしていて一部は行政がやるべき内容がたくさんあるように思います。そこの仕分けをどこまでするのか、市民構想会議として、その議論は大切ではなかと感じます。

そういったことで、こういったところを沼田市がどこを目指すのかなかなか見えないところがあります。だから沼田市の未来という、割と抽象的な話ですが、その辺をもうちょっと具体的に話題にしてもらった方が、行政が担う問題とこの場で議論する内容が被らなくてすみ、我々としても考えていく上で良いのではないかという気がしております。

<アドバイザー>

今、ご指摘いただいたように、例えば各委員さんからご提言頂きました内容を精査して、事務局でご提案いただいたものを、委員さんが指摘された方向で、取りまとめてみるというのは、いかがでしょうか。

ひとつの提案ですが、分野別意見一覧というまとめ方。例えば〇〇というタイトルでまとめて行く。あるいは従来型のコミュニティ・安心安全・福祉・教育・都市基盤・農林業・商工業・観光というような、行政の担当部課に沿う分類でまとめるという、どちらがこの市民構想会議には良いかということになりますが、どうでしょうか。どちらか、皆さんのお考えに沿う方法で、もう一度これまでのご発言内容を精査させていただいて、方向性を出していくというのは、如何でしょうか。

<事 務 局>

次年度については、市に対する提言についてこういうものを目指したらどうかという提言に期待したいと思っています。その中には当然、行政でやるべきこともあると

と思いますが、要は沼田市の未来への提言という意味から、市全体が市民を巻き込んで協働していける、将来の沼田が活性化できる提言をお願いしたいと思っています。

前回、篠田先生からはこの市民構想会議は単なる市政への要望ではなくて、市民はこういう部分を担うが、この部分は行政が担い、共に目指すべき沼田市の『未来への提言』をしていただく考えを基に、とりあえず提言をして頂いたと思います。

次年度には、委員さんが議論を深めて頂く為に、これまでの提案を本日まとめていただき方向性について確認をして頂く予定でした。その中で一定の提言をまとめていただき、市長の方に提出していただくということでございました。

あまり窓口を広げ過ぎて幅広く議論をしてしまうと、議論が拡散してしまい、まとまらないうちに会議が終わってしまいかねません。結論を急ぐわけではありませんが、議論の蒸し返しや、繰り返しは可能な限り避けて頂き、必要な議論には十分な時間を掛けて頂けたらと考えています。

委員さんからはいろいろなご意見が出てきましたので、その中でどういった方向性を持って考えを推し進めるか、そういった方向性を定めていただければ、次年度には、皆さんによってご議論頂きました方向性に沿ってスムーズな議論に入れるのではと考えております。その辺を踏まえて、皆さんで検討していただければと考えています。

<アドバイザー>

事務局からこの市民構想会議への方向性決定の意向がありましたけれども、これについては如何でしょうか。

私は3つに分類して方向性を定められると思います。食と農業、農産物、農業振興、あるいはこれに伴う様々な関連問題は活性化の問題にまで繋がるという課題がひとつとあると思います。勿論、ここには観光業も農業に入ってくると思います。

委員さんが言っておられた様に積極的に自然を活用していく、それから最後に委員さんが仰った、この地域の自然景観である貴重な特質を活用する観光振興、それから3つ目が働き方改革を含めたこの地域の就労者人口を増やす、人口増のための少子化対策等。ここには農業の6次化の推進ということもあるでしょうし、この3つに集約していけるように思います。

具体的に提言して頂いた内容を検討し始めれば、議論のスピードは相当に上がるようなお話もありましたし、特に最初の委員さんからありました特化したマニアックな世代を超えた教育機関を作ってはどうかという提言は、インターナショナル・スクールの話にもつながっていけるのではないかと思います。

その他では、例えば、従来型の公共工事の進捗に関わる沼田市のインフラ整備について、先手を打っていけるような滞留型の施設を考えたらどうかという提言だったと思います。

しかし公共工事のインフラ整備は行政側が時間を掛けて計画遂行を進める性格から、むしろ市役所内部での検討を市民構想会議の提言として、お伝えするという限界があるように思います。

同様に森林文化都市を標榜しているのだから森林を進化する森林施設整備をしながらアドベンチャー施設を作ってはどうかと言った提言もありました。

これは教育の話と重なりますので、沼田市が目指す未来への提言としては煮詰まってきたように感じます。

この3つで大体、もう一度事務局で整理していただいたものを、1回皆さんに報告として次年度に、そうした内容を引き渡していけば、具体化していくと思えますが。

<委員>

私は5年10年先を見すえて、沼田の未来を考えることが重要だと思います。行政が、道を作り、市民生活の為の環境を整えることは行政の仕事ですから、その為にも先を見据える計画が大切です。

先ほど、戸鹿野橋の掛け替え等につわる話が出ていましたけれども、やはり資金が必要です。5年後には沼田市の人口は4万5000人を切ってしまう事が想定されており、そうすると税金がどれだけ減るか、市の行政として資金減の問題は、未来への投資にも必ず差し障ってくると思います。

新しい施設を作るのも良いと思いますが、それには行政の資金がどこまで活用できるかを考えなければ無責任のそしりを免れません。やはりそのためには人口を増やさなければならないし、高齢者の対策もしなければなりません。若者もどれだけ沼田に引き寄せられるかも考慮しなくてはなりませんから、その辺も十分に頭の片隅に置き、考えていかななくてはと私自身はそう思っています。

<アドバイザー>

人口対策をまずきちっと施策としておさえ、それを前提にして、事を進めよという訳ですね。

<委員>

そうです、10年後に沼田市の人口はこのままいけば、3万人台に落ち込んでいく状態ですからね。そうなるとどこで資金を作って、どうやって税金を徴収するかが大きな問題になります。街なかにしても65歳以上の高齢者が47%で、高齢化が進んでいますから、5年後10年後になれば、ひとが何人になるか分かりません。

平成32年7月（実際には31年7月）に市庁舎がテラス沼田に移転してくる時には街中はさらに空洞化します。それも2年後です。

そういった問題も市民も真剣に考えないといけない。いろんなことを考えるのは良いのですが、新しい事業をするにしても、その前にこうした現実を知って欲しいと思

いますね。

<アドバイザー>

新しい事業ありきで未来を構想するのではなくて、指標としての人口減少を手掛かりに、未来への対策を講じながら社会をつくり変えていく事が重要だとのこと指摘ですね。指摘された人口が3万人くらいになるという事ですが、その規模の街はこの周辺でどんな町がありますか。

<委員>

3万になると全部合併していますから、11市の中では沼田市が一番下で4万9千です。3万人になると市でなくて町になります。沼田の行政区も、今80ありますが、統合しなければいけない状態になっていて、今一番少ないところが4世帯だそうです。街なかでは私が住んでいるところが65世帯で中町が44世帯、上之町が43世帯でそこを全部統合しなければ駄目なような状態もあります。あと数年すれば激減します。

<アドバイザー>

40年で40%減を目標にしている市の方針は現実的だという訳ですね。

<委員>

そうなりますね。

<委員>

40%以上でしょうね。

<委員>

今、街なかでは高齢化していて、80歳以上の人がほぼ半数居ます。5年後10年後には、その人達は恐らく亡くなられていると考えると、厳しいですね。

<アドバイザー>

人生100歳時代とまで言われはじめ、健康長寿の方が増えていると、日本の長寿社会について報道されていますが、甘すぎますか。

<委員>

恐らく市の財政が持たなくなってしまう。今の合併特例債、100億使って30億の負担で沼田市はやっている様なことですけれども、人口が仮に3万になってしまったら、とっても難しい。

私は資料を出していないのですが利根沼田という形の住み分けを考えずに利根沼田の広域化を図っていかないとやっていけなくなると感じています。ひと頃、利根沼田10万と言われましたが、今は恐らく委員さんの話にもあるように10年後には5万か6万、利根沼田でそれくらいになってしまうと思います。

そうなった場合に、いろいろなご意見がありましたが、その中で沼田市と接してい

るところのものが非常に多いわけです。同じことをやるなら一緒にやらなきゃならなくなるが見えています。

と同時に行政をスリム化していかなければ、もう合併という前提はなくなるとして、行政をスリム化して利根沼田に何かひとつあれば良いという物は、そのような形にしていかないと、これからはとても難しいだろうと思います。

もう一つは老老介護なんですよ。今後、定年も65歳から70歳になると思いますが、10年もするとそのあとには介護職員はもっと少なくなる。これを老老介護の形で沼田の場合は70でも元気なひとは介護に回って下さいという方法に変えていかざるをえなくなるように思います。福祉施設も、お金をかけずに回せる工夫が求められるようになって感じています。

物を作る、ハードはこの2年間でもう全部おしまいだと思う。あとはソフト面でやりくりする時代が来る、それと同時に移住と言っても、移住の希望は山梨の北杜市が全国トップで沼田との違いを考えていかないと言葉倒れになってしまいます。

日本全国の人口が一気に減るわけです。我々が若い頃には東京の高島平辺りの団地には人があふれていましたが、移住と言ってもそういう時代とは根本的に異なる社会になろうとしており、その変化を含めた労働の問題、老老介護や老老支援を積極的に取り入れるにはどうするか問題解決しないとダメだと思います。

それと企業誘致の話がありましたが、企業誘致には企業側にもメリットのあるハード面の整備に市の援助が必要ですが、これは今ではとても難しい。

IT関係などであれば、むしろ沼田市などは首都圏にも近く、巨大な施設を必要とはしていないので、そういう企業誘致を積極的に考えてみることは大切な視点です。IT関連でいえば、ネット通販大手等、雇用は電話の交換手だけでも300人400人という人が要るわけですから、そんなことも是非考えて提案していったら良いのかと思います。

<委員>

今の話に通じますが、人口問題は大事ですが、人口の元は雇用だと思うんですね。雇用はどうやって作っていくか。いろいろ企業誘致の話も出ていますが、自動車とか電気とかを例にとって見れば、例えば何万人という規模で人を雇っても社会変化でそれが一気に不要となるケースもあり大変です。大企業に来てもらうかということ、そうではないと思う。

私が最近聞いていて良いなと思うのは、農家ですね。結構、若い人が働いているんです。どうやったら働くんたいと聞いたら、例えばイチゴにすれば、ハウスの中で機械を導入して、従来のようにそんなに汚れないで仕事ができる環境にすると、若い女の子なんかも働けて辞めなくなったと言うんですね。

大企業だってリストラがあったりする、誘致しても不況になれば無くなってしまふ。むしろ地元の小さな事業所がどんどん発展して行って、雇用機会があるというような仕組みになれば、最終的には人口減にも歯止めがかかります。だから私は雇用が大事じゃないかなと思うんです。

<委員>

そうですね。働く場所ですよ。

<アドバイザー>

働く場所として考えたときに、どんな物が思い浮かびますか。

<委員>

今の話は、農業ですが、こんにゃくの6次産業化もそうでしょう。作る、研究する、付加価値を付けて販売する、そうした取り組みも含まれてくると思いますよ。

<委員>

こんにゃくの6次産業化は既に、2番目に発表された委員さんが良くご存知だと思います。昭和村の方もいろいろなことにアイデアを出していますね。沼田市の農業は、2代目の後を継ぐ人が減少して困っている。後継者が居ないんですよ。

昭和村を例にとると、昭和村は結構いるんですよ。50%以上がそういうような形になっているんですよ。だから、その辺の所も変えていかなければいけない。

そうなってくるといろいろ幅が広がって来ますが、どこかで、先生が言ったとおり問題の絞り込みが大切だと私も思います。

1・2点に絞っていかなければ絶対に難しい。これから想定されている未来が目の前の現実となって目に見えてきますからね。

実際に企業を誘致しようと言っていますが、では通信会社とかネット通販の会社とかですね、藤原にその関係者の自宅が恐らく別邸として作ってあるんですよ。10軒ばかり。あそこになぜ作ったかと言うと、自然災害はもちろん、放射能をはじめ、あそこが一番安全な場所らしいのです。

ヘリコプターでこちらに来て、そこで過ごして、また放射能がなくなったら東京で働く。そういった一流企業の人たちは、もう家を作っているんですよ。

その辺のところでは自然環境の豊かな良さというのは、利根沼田にあるはずですよ。今もSNSの会社の代表取締役と話をしたんですが、沼田は環境が良いから、この辺にも何か作りたいですねという話もあったんです。

だからそういった人達が来ていただきながら、今、言ったネット通販関係とかインターネット系列、これを誘致できれば沼田も面白いところになるかなと思います。

<アドバイザー>

是非、委員さんのお力でお呼びしてください。

<委員>

大きな工場というのはもともと無いですからね。人の数を採用する企業を。

<委員>

こないだSNSの会社の日本の社長だった人が、韓国の社長になってインドの社長になって、今度はアメリカの取締役に入ったんです。その人とちょっと話をしたんですけれども、いろいろと世界を巡っていますね。

朝2時に起きて3時の飛行機でアメリカに飛んで合同会議をすとかで。沼田はものすごく良い自然環境に恵まれていると言っていましたけれどもね。だからその辺どうにか考えてくださいと言いましたけれども、どうなるか。

<委員>

私、この会議で、一部は若い人がいらっしゃるんですけれども、私も含めて年齢の高い人が多いですね。未来の沼田を考えるというのであれば、若い人が意見を反映できる仕組みがあると良いのではと感じます。女性が少ない事もそうですが、ここはそうした点もやっぱり考えて行かないとまずいかなと思います。

<アドバイザー>

第1期の時も提案しましたが、この地域の中学生や高校生に、中学生・高校生版の市民構想会議をやってもらい、若い未来ある子どもたちにこの沼田の未来を語ってもらうのはどうかと申し上げた事がありました。

もちろん学校教育上の制約がありますので許される範囲で進める必要がありますが、高校生は高校生で、そういう意見をスクープすると意外に、リアルな若者の声が聴けるようにも思います。

ここには住みたく無いとか、絶対にここに帰ってきたいというようなリアルな話が投げかけられるように思います。委員さんが仰った様に、この会議に参加して頂いている方々は確かに熟年世代ですよ。そういう意味で皆さんの世代が考える皆さんの沼田に対して、もっと若い世代が若い世代の為に考える沼田の未来というのもリサーチする価値があるように思います。

地球規模で考えている中学生や高校生が、もしいたら、沼田よりも素晴らしいところに行きたいと言うような子がいるかもしれませんし、逆に沼田で一生懸命頑張っていきたいという子もいるかもしれません。一度は外にでた人が、沼田の良さを再評価して帰ってくるかもしれない。そのときには強力な爆発力を持った若い世代の人たちが次の担い手として出てくるかもしれません。

それはなんとも言えませんが、ひとつはご指摘のように世代の偏りを修正して未来を語り描くことも必要かなとも感じます。

<委員>

若い人もそうなのですけれども、現在、利根沼田の高校に修学しないで、群馬で言えば都会の前橋・高崎・渋川、こちらに進学する子どもが、確か200人を超えています。

朝の駅ではこの利根沼田地域の子どもが渋川・前橋・高崎の学校に行っているのです。若い人達は中卒で高校は沼田から離れる。そういう傾向が強くなっている。なぜかと子ども達に聞くと、沼田の高校ではレベルが低すぎて、上の大学に行く為に一貫高校に行くと都合が良い、そういうような考え方の子どもが多いのです。

やっぱり学校、高校の魅力というのも、大切な条件になっているように思います。みなかみ町に利根商業というのがあるんですけれども、やっぱりこの地域の子どもがこの地域の学校で育たないと地元に対する愛着というのが薄くなり、故郷に対する想いが継承できなくなり非常に難しくなってきます。

高校の魅力創りがこれからの沼田では若者の故郷に対する思い入れを深くするためにも非常に重要な課題になると思います。あちらの高校に行けば、もう沼田には戻って来ない、ほとんどゼロです。その辺りを考える必要があると思います。

<アドバイザー>

でも沼高の道路沿いの垂れ幕には全国大会でたくましく素晴らしい成績を上げているという垂れ幕が出ていますが。そういう人達はきっと沼田のことを愛していますよね。趨勢は別としても、それに反旗を翻して、この地域の魅力というものをやっぱり皆さんのアイデアと行動力で再創造していかななくてはならないと感じますが。

<委員>

私は若い人の話を参考にして問題提起をさせてもらいました。具体的には千葉にターザニアというところがあり、そこに若い人が大勢行くらしいのです。そこでは、アクティブに活動できる場所がある。若者には評判の良い所だそうです。森林文化都市を標榜している沼田市にもそういう施設が来れば、若者が来ると思います。

沼田にももっと若者が来るような町にして欲しいと若者が言うのです。ターザニアが良い例として沼田は森林文化都市なのだから同じような施設を作れば若者が来る。若者が来れば自然と色々な人が来るようになる。沼田が元気になる。こういう発想です。私が聴かされた若い人達の意見は、そういう意見でした。

<委員>

私が失礼なことを言ったかもしれませんが、こういう会議だと年寄り対策をどうしようかという話ばかりになりがちで、そこを危惧していましたが、そんな年寄りが考えたことなど知ったことじゃ無いと、若い人達は思っていると思うんですよね。委員さんが未来のことを、若者の意見を取り込んでの事だとの発言をお聞きして、そういうことを考えられていた事を知らなくて誤解して聞いていました、すみませんでし

た。

<アドバイザー>

随分、活発なご議論をして頂いたかと思えます。そろそろ時間も来ましたので、本来ならコーディネーターとして委員さんのご指摘にもありましたように、きちっとまとめて未来を示すということが、今日の会議の題目だったと思いますが、十分にそうしたご指摘に沿う会議進行となったか心もとないかぎりです。

が先ほど私が提案させて頂きました試案として申し上げた3つの方向性プラスその他で、一度事務局と詰め合わせ、概ね、まとまったところで方向性についてのご報告が出来ればと考えております。

今日ご参会の委員さんを始め、ご欠席の委員さんを含めて、そのようなご報告ができるように進めたいと考えますので、なおご意見があれば事務局がお伺いするという形にして、今日の会議を会長さんの方にお返ししたいと思います。

長時間のご協力ありがとうございました。

2) 次年度検討テーマの協議について

<委員長>

ありがとうございました。次年度の市民構想会議につきましては、ただ今ご協議いただいておりますけれども、3つのテーマを中心に絞り込み、その後、皆さんのいろいろなご意見をお聞きしながら、来年度に向かってテーマを決めていくということによってよろしく願います。

3) その他

<会 長>

それでは次の議題(3)その他に移らせていただきますけれども、委員の皆さんから何かありますでしょうか。

<各 委 員>

(無し)

<会 長>

事務局から何かありますか。

<事 務 局>

事務局からは、2点ご連絡させていただきます。なお、先ほど篠田先生からご発言がありましたように、今回の会議概要については会長・篠田先生と詰めさせていただき、それができたところで各委員さんにお配りしまして、その中にご意見があれば事務局の方に直接ご連絡いただけるように進めそれをまた会長等に繋げるようにさせて頂きたいと思えます。

そうすれば事務局から2点お知らせいたします。今年度6回市民構想会議をお世話

になりました。ありがとうございました。些少で本当に申し訳ないのですが、委員さんへの謝礼、車代というかガソリン代程度になってしまうかと思いますが、出席回数に応じて謝礼を用意させていただきたいと思いますので、用意でき次第、委員さんの方にお届けするような形を採らせていただきますのでご承知置きいただければと思います。

それと次年度の市民構想会議の日程でございますけれども、委員の任期は2年となっております。来年度も委員さんにはお世話になるということでございますけれども、団体代表の委員さんについては一部組織内での交代等があるということでありますので、4月中にその団体から推薦をいただいて、5月下旬には第1回の構想会議を開催したいというふうに考えております。また、日程の決定については会長等と相談させていただきながら決めご通知の方を出させていただきたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。事務局からは以上でございます。

<会 長>

ありがとうございました。説明がありました次年度最初の会議につきましては5月の下旬ということで、またご案内があるかと思えます。活発なご意見を期待しています。他に皆さんの方から何かございますでしょうか。

<各委員>

(無し)

<会 長>

無ければ、以上で議事を終了させていただきます。ご協力いただき誠にありがとうございました。

<事 務 局>

会長ありがとうございました。それでは今年度最後の構想会議ということでございますので副市長からあいさつを申し上げます。

<副 市 長>

29年度市民構想会議第6回、皆様方にお世話になりました。この1年を通じて、特に議論していただきましたのは、どちらかというと市からのお願いということで、これからの公共施設等の在り方についてのご意見をいただいたこと。それから地方創生に関する総合戦略についての事業成果についての評価、こういったものをいただいたということでございます。

次年度につきましては今日、各委員の皆さんから様々な思いを発表していただきましたが、委員の皆様からの提言を次年度では中心的に整理をしていくということで、未来の沼田を皆さんの貴重な意見で作りに上げていく、そのひとつの基礎的なベースとして活用させていただくような形での整理に繋げていければなというように考えてお

ります。

今日の皆さんの意見を伺いますと、やはりそれぞれの領域なり、それぞれの思いが非常にあるというのを感じました。ひとつひとつ切り取っていくとやはり、非常に大切なものばかりで、特にこれからの人口減少を踏まえたときの課題というのが山積しており、行政サイドの人間とするとかなり頭の痛い問題というのはございます。

特に最後の方でのご意見とすると、人口が減少すると財政的にも厳しくなるというような説明がありましたけれども、単純に言えば、個人市民税が人口が減れば当然減ると言う形になると思います。

企業誘致でもしてかなり法人の方が伸びないと全体的には下がっていく。それから固定資産税というのも非常に大きな税源になっていますが、あれは物ができると、どんどん評価が下がってくるということで、新しい物ができなければ、どんどん固定資産税も減っていくというような形になります。税構造上も、他から人が入って来て、人が増えたりとか、何か物を投資して、償却資産が増えていかないと、財源がなくて難しいというような形の流れにはなっていく可能性が今のところ高いという現実問題があります。

とは言え、皆さんがこうやって幸せにここで住み続けていくというのがやはり我々が願っていく、やるべきことだと思います。皆さんの知恵をお借りしながら沼田をこれからもっと元気にしていくというようなことをやらせていただければということで、次年度についても活発なるご意見、それから素晴らしい提言に向けてのご協力をお願いしまして1年間の御礼のあいさつとさせていただきます。ありがとうございます。

<事務局>

それでは以上もちまして第6回市民構想会議を終了させていただきます。1年間大変お世話になりました。